２０２３年１２月７日（木）

老球の細道７６４号

名コーチとの出会い「世界のコーチ、トスティン・ロイブル」⑳最終回

会津バスケットボール協会　室　井　冨　仁

腰の手術で入院する前に書いたシリーズ⑲から久しぶりの通信である。

トステイン氏のコーチになるきっかけが、東西ドイツの統一により人材が豊富になり、いつの日かアメリカを倒し世界 NO1 になる可能性が大になり、その夢を果たすためであるということをシリーズ⑲で書いた。その夢が今回のワールドカップでとうとう実現することができた。彼はチームを率いることはできなかったが、どれほど嬉しかったことであろう。

先月突然日本へ来てクリニックを行った際に、ドイツの W 杯優勝について下記のようなことを話していた。

「タレントや身体能力がバスケットボールを制するのではない。スキルとチームケミストリーが勝敗を決める。それこそが、私の考える、ドイツ代表の優勝が意味することです。この事実は、日本のコーチにとっても、勇気づけられることではないでしょうか？

ドイツの競技人口は 23 万人ほど。日本のバスケ競技人口の 1/3。人気のあるスポーツは、1 にサッカー、2 にサッカー、3 と 4 も 5 もサッカーです。残念ながら、バスケは人気のあるスポーツではないのです。特筆すべきは、ドイツ代表の選手には、ドイツで育ち、ドイツの国内リーグでプレーをしていた選手が多いこと。つまり、ドイツ産の選手が非常に多いという事です。限られた才能をトップクラスに育て上げる必要性がドイツにはあるのです。

①ドイツ代表の物語はパリ五輪での金メダル獲得まで続いている。ワールドカップ優勝は喜ばしいことだが、通過点の１つ。

②Gordon Herbert（独ヘッドコーチ）さんは、素晴らしいゲームプランと適応能力の持ち主。自分の考えやスタイルもあるが、それに固執せずに、柔軟に現象に対応する。彼は、チームの規律を大切にするコーチです。同時に、一人一人の個性を尊重するコーチでもあります。There is no I in the word TEAM、つまり「チームには I（私）は無い」という考えを重視する」

ドイツへのコーチ研修ツアー２回と１０数年に渡る会津地区でのトステインクリニックにおいて、私はそれまでの自分のコーチ哲学、コーチングを根底から変えさせられるカルチャーショックを与えられた。また、世界を股にかけてバスケットボールの指導に当たるプロ中のプロの凄さを身近に学ぶこともできた。思い出すと痺れる経験だった。

情熱とユーモア、そして妥協を許さない厳しい彼のクリニックは、わが会津地区の指導者、選手にも大きな影響を与えた。私もその当事者の一人として、彼から学んだバスケットボールの財産を当地区の子ども達、指導者達に今後伝達していければ幸いである。

ハードなスケジュールで目の下にクマができても、決して「疲れた（tired）！」と言ったことがなかった。「コーチは“疲れた”と言ってはいけない」と私は何度も戒められたことを思い出す。また時間に厳しく、約束の時間に遅れたことは一度もなかった。タフで誠実で律儀、そしてユーモアたっぷりのトステイン氏の活躍をこれからも多いに期待している。〈完〉